

平成30年度 高短生調査の結果報告

高田短期大学 自己点検・評価委員会

<本調査の目的>

高田短期大学に在籍する学生に対して質問紙調査を行い、学生の学習成果や短大生活の満足度等を把握し、高田短期大学の今後の教育や学生支援を改善・向上させていくための基礎資料の蓄積を目的とする。

<調査方法>

高田短期大学の全学生を対象として実施し、調査項目は「基本属性」「1週間の活動時間」「授業内外における学習行動」「短大生活全般」「学習・生活支援」「キャリア支援」「学習環境」である。

<結果>

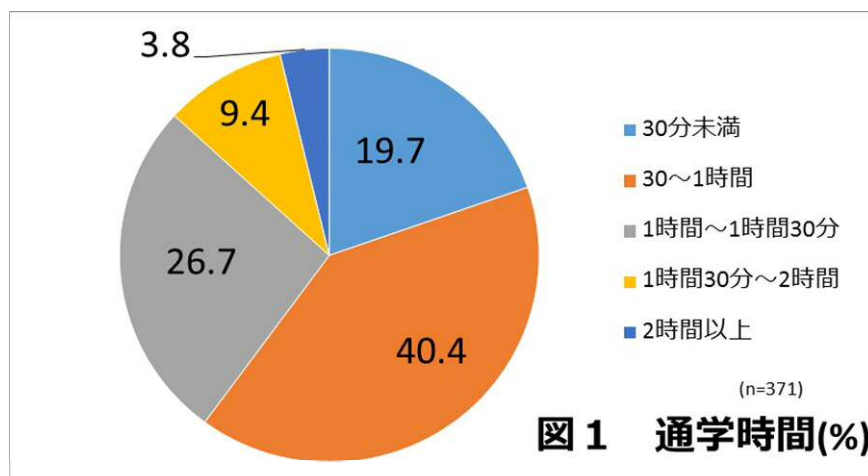
基本属性：所属学科および学年を表1・2に、通学時間を図1に示した。

表1 所属

	人数	%
子ども学科	259	69.8
キャリア育成学科オフィスワークコース	86	23.2
キャリア育成学科介護福祉コース	26	7.0
合計	371	100.0

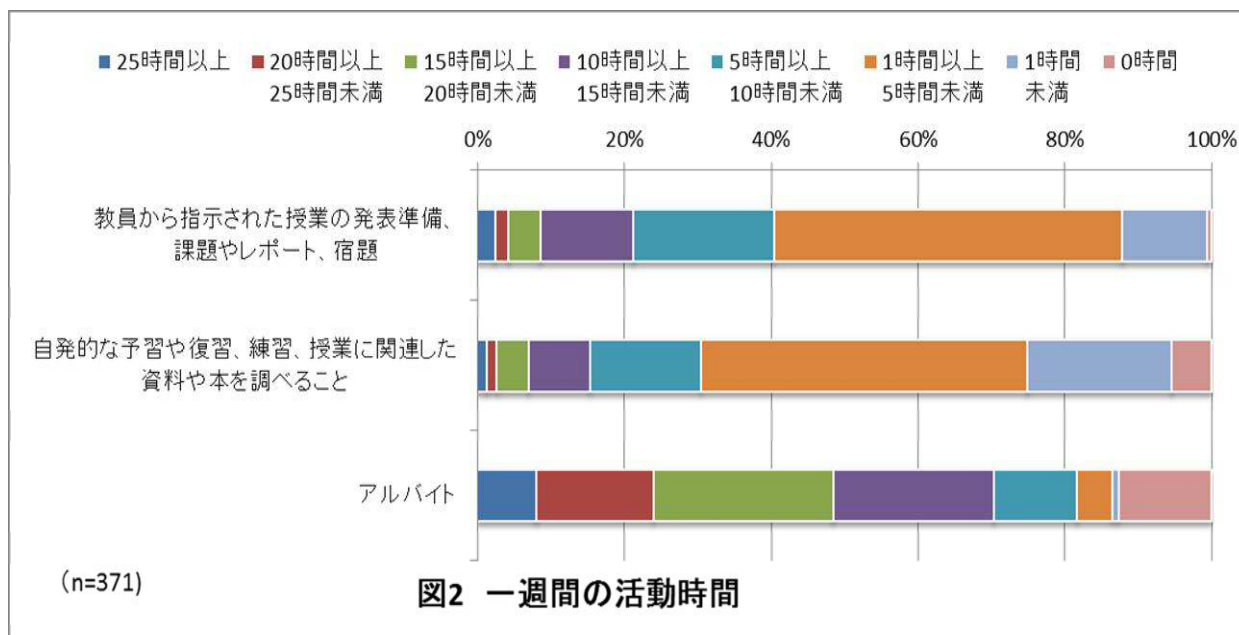
表2 学年

	人数	%
1年	190	51.2
2年	181	48.8
合計	371	100.0

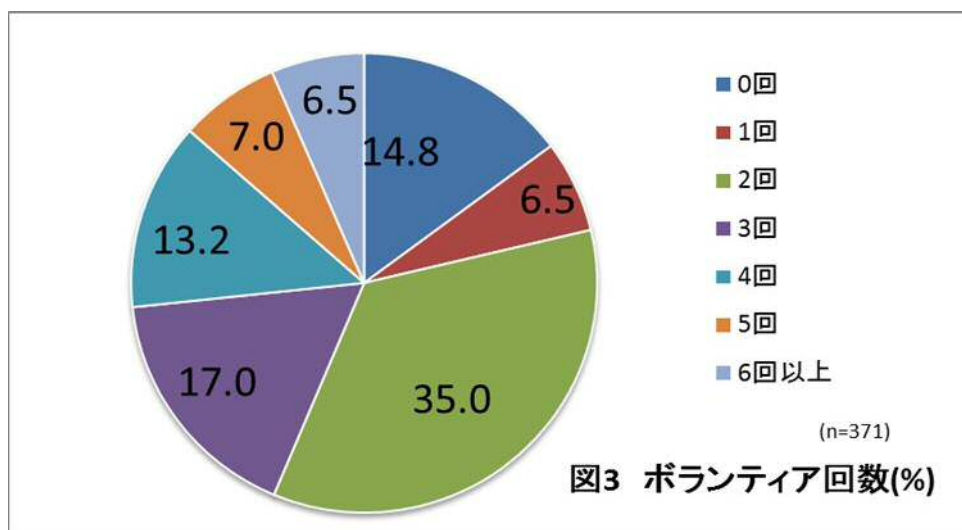


<結果>

1週間あたりの活動時間

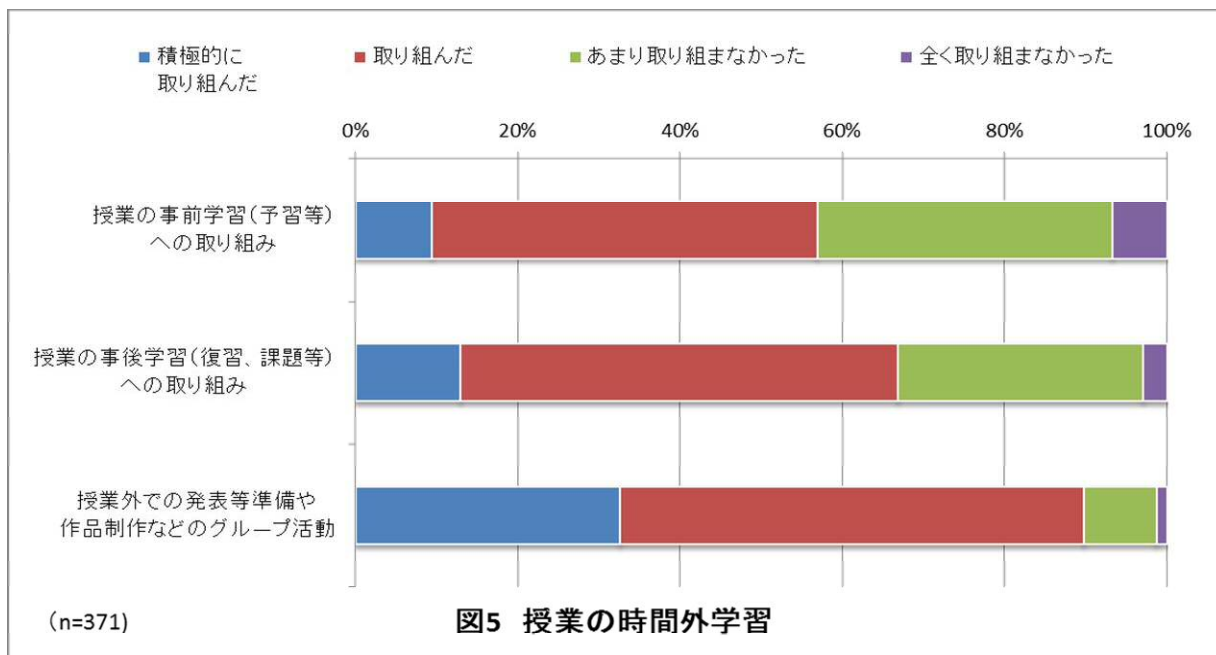
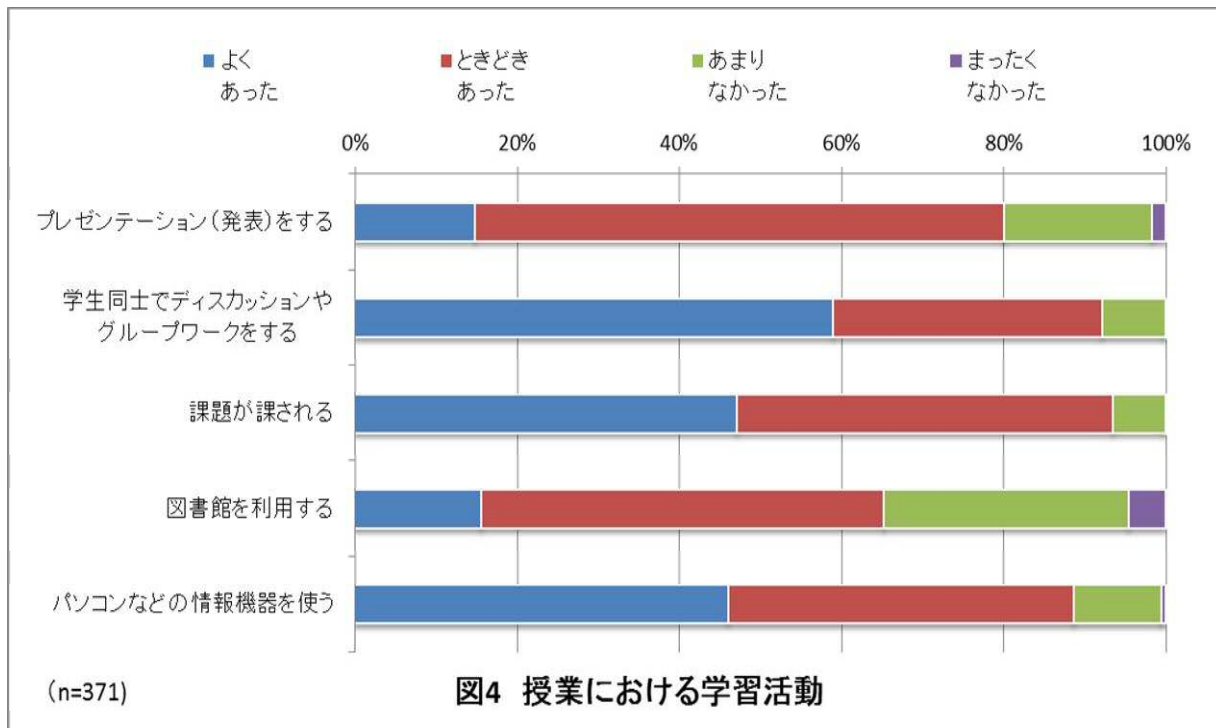


1年間のボランティアおよび地域交流活動への参加回数



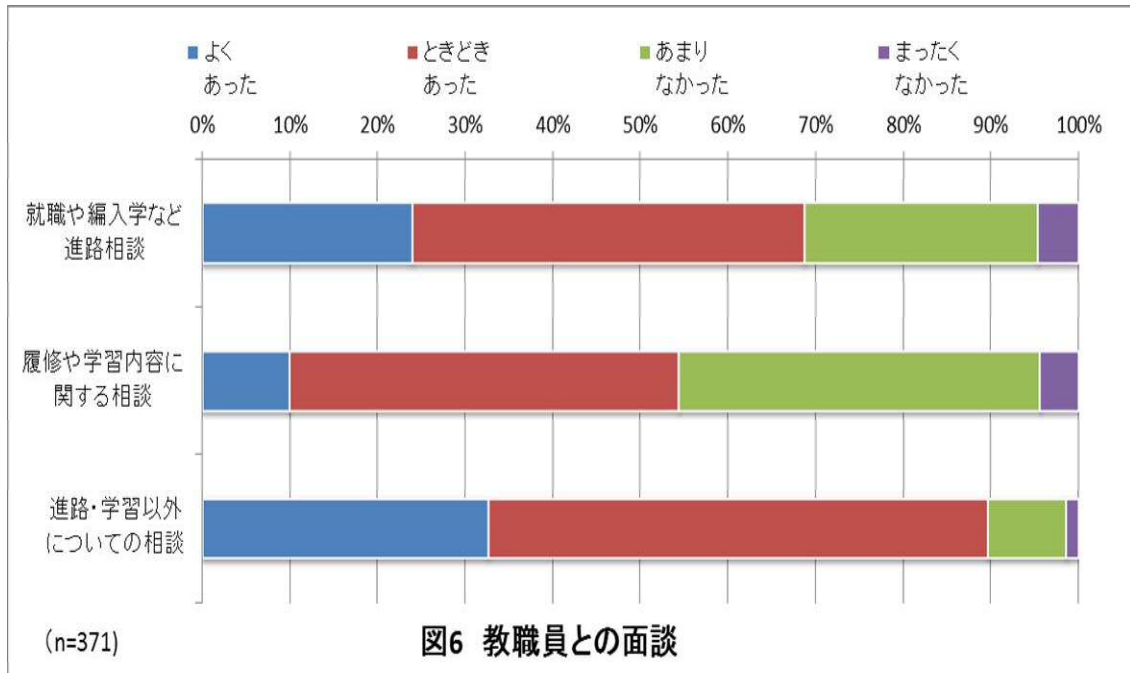
<結果>

授業内外における学習行動

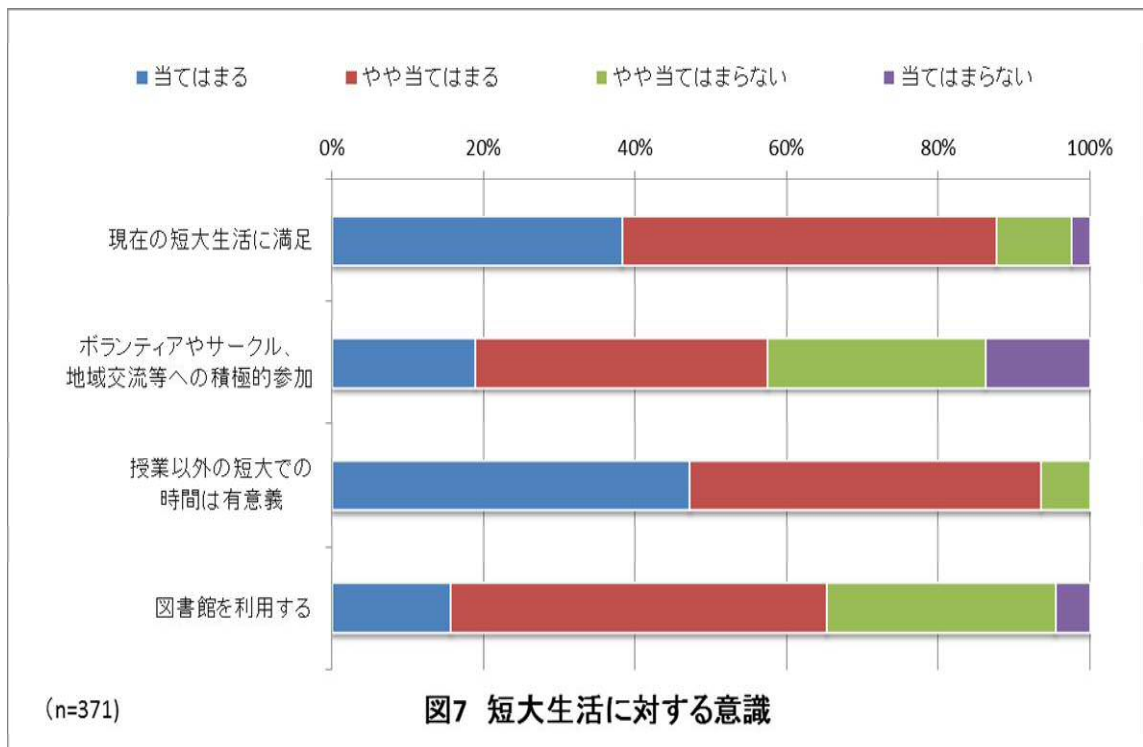


<結果>

教職員との面談機会

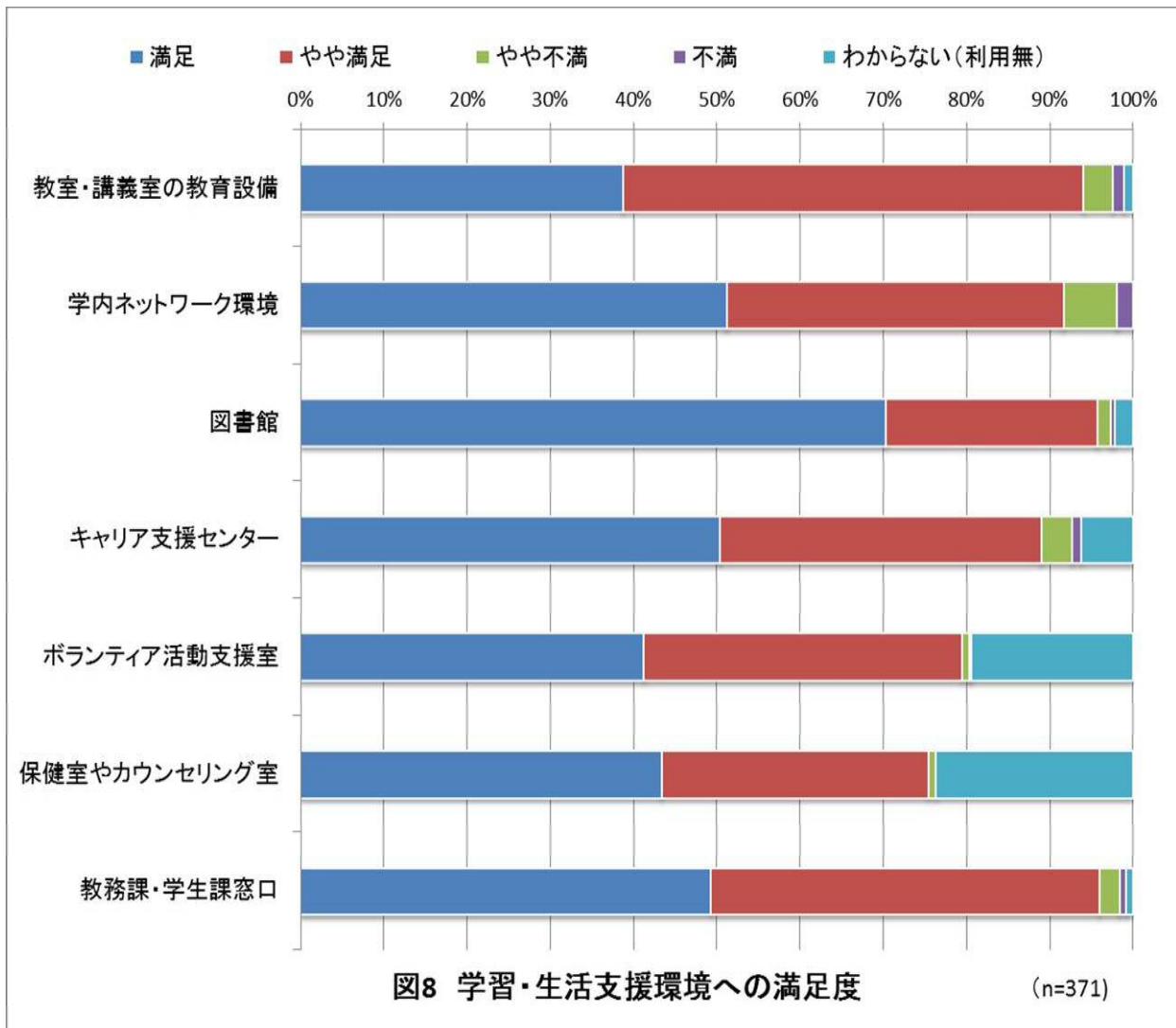


短大生活全般の意識



<結果>

学習・生活支援・環境



<結果概要>

<p>* 通学時間(図1): 1時間以内通学圏内の学生が60%であった。</p>
<p>* 1週間当りの活動時間(図2): 授業外での学習時間では、課題やレポート等には1週間で5時間未満と回答する学生が60%で、予習・復習等自発的な学習では5時間未満が70%であった。アルバイト時間では、していない学生は15%であり、1週間15時間以上の学生がおおよそ半数であった。</p>
<p>* ボランティア等の参加回数(図3): 1年間にボランティアや地域活動に一度も参加していない学生は15%であるが、45%の学生は3回以上参加している。</p>
<p>* 授業内における学習行動(図4): 図書館の利用があった(よく+ときどき)の回答が65%であった。また、プレゼンテーションは80%、グループワークや課題、情報機器の使用は90%の高い割合であった。特にグループワークは60%がよくあったと回答していた。</p>
<p>* 授業外の学習行動(図5): 事前学習と事後学習への取り組み意識は事後の方が高い傾向であった。授業内でのグループワークの機会が多い結果であったが、授業外でのグループ活動への取り組み意識も高かった</p>
<p>* 教職員との面談機会(図6): 進路相談70%、学習関連の相談55%のが学生が面談の機会をもっていた。進路・学習以外の生活等の面談は90%近い学生があると回答していた。</p>
<p>* 短大生活に関する意識(図7): 90%学生が現在の短大生活に満足しており、短大での授業以外の時間も有意義に過ごしていると回答した。ボランティアや図書利用は前述のボランティア回数や学習行動と同様の意識結果であった。</p>
<p>* 学習・生活支援及び環境(図8): 本学の学習支援や生活支援に関する調査7項目すべてが90%以上(わからない・利用無を除く)の満足度であった。</p>